



マナー講習会を行いました

9月13日(水)に、全学年を対象としたマナー講習会を実施しました。講師として長崎女子商業高等学校の先生と長崎女子商業高等学校の生徒2名に来ていただき、キャリア教育の一環として、社会全般で必要とされるマナーやルール、あいさつの仕方など、外部の方の視点でその重要性を教えてくださいました。

1学期の学校評価では、生徒と保護者、教職員で下記のように結果に差がありました。

| 項目 | 生徒 | 保護者 | 教職員 |
|-------------------|-----|-----|-----|
| ルールやマナーを守って行動している | 90% | 89% | 50% |
| 生徒は、よくあいさつをする | 79% | 68% | 50% |

生徒はこれらの項目に対し、自分たちではできているつもりと捉えています。しかし、教職員はその内容について、より高いものを目指していますので、このような差が生じたものと思われます。そこで、改めて誰の目から判断しても、これらのことがしっかりとできるようになってほしいという思いから、今回のマナー講習会を計画しました。講習会の中で生徒たちに指導していただいたことの一部を紹介します。

講習会の中では、将来何らかの職業に就くという前提で、**新入社員に求めるものベスト3**

1. コミュニケーション能力 → あいさつから始まる
2. 主体性
3. 一般常識

第一印象はあいさつをする前に決まる

第一印象 ← あいさつ ← はいの返事・気をつけの姿勢 ← **心**



実際にあいさつを行う時の頭の下げ方（角度）や、ワンストップあいさつ、日常生活の中で人とすれ違う場合にあいさつをするための動き等、講師の先生はお手本を示され、その後、生徒たちもグループに分かれて練習を何度か行いました。

3年生は受験が目の前に迫っていることもあり、「**面接の第一印象は3秒で決まる**」と言われた講師の先生のことばにしっかりと耳を傾け、声の大きさや、笑顔を心がけて取り組んでいました。

1・2年生はまだ先のことという意識を持ちながらも、初めて正式に教えていただく内容を身に付けようと頑張っていました。講師の先生は、そのような生徒たちの様子を見て、声を大きく出すことが苦手な生徒が多く、すぐには上手にできないことを承知の上で次のことを言われました。

普段していなくても「その場になれば、やればできる」と思っていることが、実際初めて会う人の前では「できない」のと同じで、普段からしておく（日々の生活の中でいつも実践しておく）ことで、身に付くのです。そのため、日常から実践を重ねておかなければならないのです。

私たちは日常からできていないことを、「やろうと思えばできる」と言って、やらない自分を正当化することがあります。実際にやらなければ、いつまでたってもできないままで終わってしまったという経験がないでしょうか。できないことを自覚して、努力していくことが成長の始まりです。まだまだ、自分のあいさつは不十分だと自覚して、もっともっとできるようになろうという気持ちで個々が取り組み、深堀中全体のあいさつが向上してほしいと思います。

本の寄贈 ありがとうございます

令和3年度、当時は生徒会の文化委員長を務め、現在高校2年生の卒業生から、本の寄贈を受けました。どの本も深堀中学校にはなかった本です。わざわざ、体育祭の振替休日を利用して持ってきてくれました。卒業生の厚意に感謝します。

3年生 模擬選挙を行います

9月22日（金）の5・6校時に3年生は、出前授業を長崎市選挙管理委員会から来ていただき受けることになっています。日本の社会では、選挙権年齢が「満20歳以上」から「満18歳以上」に引き下げられ、平成28年6月以降の選挙から、18歳になると「選挙権」が与えられています。3年生で15歳に達している人は、3年後に投票の機会が巡ってきます。

学校でも、校内の生徒会長等の役員を選ぶ生徒会役員選挙はこれまでに経験していますが、実際の選挙により近い体験は、今回が初めてとなります。

最近の選挙では若年層の投票率が低迷するため、選挙権がない年齢のうちから、選挙の知識や関心を深め投票意識を向上させる必要があります。そこで今回の出前授業では、選挙の仕組みや意義、投票の仕方や開票等を学びます。

判断力を高めるために、実際の選挙と同様に政策的なことからをテーマに候補者の演説内容（討論）を聞いて、実際に投票を行います。討論の内容や選挙公報をよく吟味して、貴重な一票を投じる重さを疑似体験し、今後選挙権を与えられた時の自分自身の行動につなげてほしいと思います。